

# 就業力向上のための教育プログラムおよび 学生サポートシステム構築に関する研究

Study on educational programs and student support system construction  
for the improvement of employment

岩瀬 靖彦<sup>1</sup>, 上杉 宰世<sup>1</sup>, 小林 実夏<sup>1</sup>, 彦坂 令子<sup>1</sup>, 堀口 美恵子<sup>2</sup>, 吉田 真知子<sup>3</sup>

<sup>1</sup>家政学部食物学科, <sup>2</sup>短期大学部家政科, <sup>3</sup>人間文化研究科人間生活科学専攻

キーワード: 就業力向上、教育プログラム、入学動機、目的意識、将来設計

## 1. 研究の目的

大学におけるアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーは、昨今大きな意味合いを持つものとなっている。大学評価においては、理念・目的等の達成状況とともに卒業生の進路状況なども評価の対象となっている。少子社会における私学として、また、大妻女子大学の女子教育として、魅力ある大学を目指すためには、入学から卒業・就職まで一貫した教育・サポートが大変重要となる。

一方、入学を希望する学生には、目的意識をしっかりと持ち、大学側のポリシーを理解したうえで、受験してもらうことが望まれる。入試制度における AO や公募推薦などの場合においては、関連することを確認できるが、多くの学生が利用する一般入試では、確認することが不可能である。そこで、入学直後の学生に対して、目的意識や将来目指すものを明確にとらえることが重要となる。併せて、卒業までのカリキュラム内容が当初の目的に叶っていたか、あるいは修得したスキルが就職後に役立っているかを評価し、その結果を教育に還元することは、今後の大学の在り方として大変重要となる。

本学の取り組み「質量両面の就業力向上のためのキャリア教育」が、文部科学省の平成 22 年度「大学生の就業力育成支援事業」(就業力 GP) として選定され、本年 4 月よりキャリア教育センター(CEC)が本格稼働することとなった。このことにより、本学教職員が一丸となり充実したプログラムの提供とともに学生へのサポートが望まれる。プログラム作成に当たり注意すべきことは、提供

する側(教職員)の一方的な思惑に留まると、受け側(学生)にとっては、不十分なカリキュラムとなりかねない。そこで、重要となることは学生の実態状況の把握によるニーズアセスメントの実施である。本研究においては、入学直後の学生に対して、目的意識や将来設計について実態状況を把握し、卒業までの毎年追跡調査を行い、意識や将来設計の変化などについて調査を実施する。一方、卒業生を受け入れる側(職場)に対しても、求める人材が持ち合わせるスキルなどについて明確にする必要がある。以上のように就業力向上には、可能な限り関わりのあるすべての実態についての状況把握が必要と考える。

今回の研究から CEC のプログラムに対するデータ提供と合わせ、教職員に対して学生支援のために必要となるデータや知見を提供することで、授業(カリキュラム)や学生サポートに反映することが可能となり、さらに社会から求められているスキルを教授することが可能となり、学生の就職活動にも貢献できると考える。

## 2. 活動実施報告

本学への入学動機や目的意識、将来設計などを調査するために 1)入試の種類、2)通学方法、3)通学時間、4)受験前の将来の夢、5)受験のきっかけ、6)受験した大学名、7)女子大学を選んだ理由、8)大妻が他の女子大と違うと思う点、9)他の管理栄養士の養成課程と違うと思う点、10)入学を決めた理由、11)入学後の将来の夢、12)栄養士と管理栄養士の違い、13)特に学びたい(やりたい)こと、14)栄養教諭を知っているか、15)栄養教諭を履修するか、16)部活・サークルに入るか、17)アルバイトを

するか、18)卒業後の進路、19)今年目標および計画の19項目の調査票を作成し、家政学部食物学科管理栄養士専攻に平成23年4月に入学した新入生に対して、4月の授業開始直ぐに調査を行い、データの入力および粗集計を行った。

### 3. 研究目標の達成状況

平成23年4月家政学部食物学科管理栄養士専攻入学した新入生の1)入試の種類、2)通学方法、3)通学時間、4)受験前の将来の夢、5)受験のきっかけ、6)受験した大学名、7)女子大学を選んだ理由、8)大妻が他の女子大と違うと思う点、9)他の管理栄養士の養成課程と違うと思う点、10)入学を決めた理由、11)入学後の将来の夢、12)栄養士と管理栄養士の違い、13)特に学びたい(やりたい)こと、14)栄養教諭を知っているか、15)栄養教諭を履修するか、16)部活・サークルに入るか、17)アルバイトをするか、18)卒業後の進路、19)今年目標および計画を調査し明らかになった。

表1 受験前の将来の夢 (%)

特になかった	12.5
なんとなくあった	72.9
しっかりあった	14.6

表2 受験前の将来の進路 (%)

管理栄養士	25.5
栄養教諭	2.0
薬剤師	2.0
医療関係	2.0
食育	2.0
食品研究・開発	5.9
企業	9.8
病院	19.6
教育	2.0
スポーツ栄養	5.9
福祉施設	2.0
養護教諭	2.0
小学校	5.9
スポーツ関係	2.0
食に関する仕事	2.0
デザイナー	2.0
外国に住む	2.0
給食提供・指導	5.9

入学時から卒業時まで追跡調査を行う予定であり、まずは1年目の調査を実施した。

当初、卒業年次の学生についても同様な調査を実施する予定であったが、諸般の事由により実施することができなかった。また、就職先に対して、求める人材が持ち合わせることを望むスキルについての調査についても実施することができなかった。

### 4. まとめと今後の課題

平成23年4月家政学部食物学科管理栄養士専攻へ入学した新入生の入学動機や目的意識、将来設計などが明らかになった。

入学前に将来展望がはっきりしている学生は、約15%と少なかった。また、資格を職業と考えている学生も25%強存在していた。

今後は1年ごとに学生の意識がどのように変化していくのか、また変化のきっかけや影響因子を明らかにし、当初予定していた実施できなかった調査を実現する予定である。